

病気療養する高校生への支援について



国立特別支援教育総合研究所屋上から眺めた東京湾

大崎 博史 (おおさき ひろふみ)

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所(NISE：ナイセ)

The National Institute of Special Needs Education, JAPAN

情報・支援部 総括研究員

本日の内容

- 1 本情報提供のもとになっている研究
- 2 病気療養する高校生への支援に関する国の動向
- 3 病気療養する高校生への支援に関する自治体の動向
- 4 病気療養する高校生の教育実態
- 5 入院児童生徒等への教育保障体制整備事業
- 6 病気療養中の高校生への継続的な学習支援の実際
- 7 病気療養する高校生への支援のまとめ

1 本情報提供のもとになっている研究

○研究課題名

科研基盤研究C（課題番号：22K02796）

修学の意思のある病気療養中の高校生への継続的な教育保障
促進プログラムの開発（研究代表 大崎 博史）

○研究の目的

本研究は、修学の意思はあるが、病気やけがによる治療のために長期入院し、退院後も自宅療養する（以下、「病気療養中」と言う。）等、やむを得ず高等学校に登校することが困難な生徒への継続的な「教育保障」の実現を図るため、「病気療養中の高校生のための継続的な教育保障促進プログラム（モデル案）」を開発・実施し、病気療養中で修学の意思のある高校生の教育保障を促進することを目的とする。

1 本情報提供のもとになっている研究

○研究期間

令和4年度～令和6年度を予定

○研究概要

- ① 都道府県指定都市教育委員会，高等学校等で実際に行われている病気療養中の生徒への教育保障の実際についての調査を実施し，事例等から教育保障の取組について整理する。
- ② 調査結果をもとに，病気療養中の段階を「入院前の段階」「入院中の段階」「退院後及び自宅療養の段階」等の時系列の段階に分け，それぞれの段階で教育保障を行うため必要な項目について「病気療養中の高校生のための教育保障チェックリスト（試案）」の作成とチェックリスト（試案）を活用した「病気療養中の高校生のための継続的な教育保障促進プログラム（試案）」の開発を行う。
- ③ 研究協力校（6校程度）において「病気療養中の高校生のための継続的な教育保障促進プログラム（試案）」に基づき，生徒に対して支援の実施と評価を行い，プログラムの改善を図る。最終的に「病気療養中の高校生のための継続的な教育保障促進プログラム（モデル案）」を提案する。

2 病気療養する高校生への支援に関する国の動向

2012年 厚生労働省 「小児がん拠点病院」の指定

2013年 文部科学省「病気療養児に対する教育の充実について」

- ・ 高等学校段階の病気療養児への指導を充実させるように各都道府県などに通知

2015年 学校教育法施行規則の一部改正

- ・ 高等学校におけるメディアを利用して行う授業の制度化
- ・ 疾病による療養のため又は障害のため、担当の期間高等学校又は中等教育学校の後期課程を欠席すると認められる生徒等に対する特例の制定

2 病気療養する高校生への支援に関する国の動向

2015年 学校教育法の一部改正

- ・高等学校におけるメディアを利用して行う授業の制度化
- ・疾病による療養のため又は障害のため、担当の期間高等学校又は中等教育学校の後期課程を欠席すると認められる生徒等に対する特例の制定

在籍する高等学校から離れた病院にある学校や病室において、インターネット等のメディアを利用して、リアルタイムで高等学校の授業配信を行うとともに、質疑応答等の双方向のやりとりを行うことが可能な同時双方向型の遠隔授業が制度化

- ・高等学校の全課程の修了要件である74単位のうち36単位を上限
- ・疾病による療養する高校生を対象とする遠隔授業は、制度開始当初、受信側の病室等に当該高等学校等の教員が立ち会うこと

2 病気療養する高校生への支援に関する国の動向

2019年 「高等学校等におけるメディアを利用して行う授業に係る留意事項について(通知)」

- ・ 条件の緩和：受信側の教員の配置は必ずしも要しない。

(当該高等学校等と保護者が連携・協力し、生徒の病状を踏まえ、体調の管理や緊急時に適切な対応を行う事ができる体制を整えるようにすること)

2020年 学校教育法施行規則の一部改正

- ・ 「メディアを利用して行う授業により習得する単位数は、高等学校及び中等教育学校の校規課程の全課程の修了要件である74単位のうち、36単位を超えないものとされているが、病気療養中の生徒であって、相当の期間学校を欠席すると認められるものが当該授業により修得する単位については、この限りではないこととすること。」

遠隔教育における単位の上限を撤廃

2 病気療養する高校生への支援に関する国の動向

2020年 学校教育法施行規則の一部改正

遠隔教育における単位の上限を撤廃

同時双方向型の遠隔教育に対する要件の緩和となりますので、**オンデマンド型授業によるものは、全課程の修了要件として定められた単位数又は授業時数の2分の1未満であるという考え方は、変わっていません。**

3 病気療養する高校生への支援に関する自治体の動向

表1 長期入院中の高校生への支援制度がある自治体

自治体名	支援方法
大阪府	非常勤講師の派遣や遠隔授業。30日以上入院の生徒。
神奈川県	非常勤講師や在籍校の教員を派遣。20日以上入院の生徒。
愛知県	非常勤講師の派遣。2か月以上の入院生徒
札幌市	院内学級。北海道医療センターに入院中の生徒。
沖縄県	院内学級。長期入院中の生徒。
東京都	院内学級。2週間以上入院の生徒。
福島県	福島県立医科大学附属病院に入院する生徒。一時的に通信制高校へ転校。

H28・8・20現在

涌井・関（2017）より引用

4 病気療養する高校生の教育実態

1 病気やけがによる入院により、転学等をした児童生徒数

(調べ人数)

		小学校	中学校	高等学校	特別支援学校 (小学部)	特別支援学校 (中学部)	特別支援学校 (高等部)
国立	①児童生徒数 (全児童生徒数に占める割合)	7 (0.02%)	10 (0.03%)	0 (-)	2 (0.23%)	1 (0.12%)	0 (-)
	②年度内に復籍した児童生徒数 (①に占める割合)	5 (71.4%)	6 (60.0%)	0 (-)	2 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (-)
	③復籍後、再度転学等した児童 生徒数 (②に占める割合)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
公立	①児童生徒数 (全児童生徒数に占める割合)	2,415 (0.04%)	1,537 (0.05%)	140 (0.01%)	268 (0.73%)	147 (0.51%)	57 (0.09%)
	②年度内に復籍した児童生徒数 (①に占める割合)	1,804 (74.7%)	1,125 (73.2%)	26 (18.6%)	197 (73.5%)	103 (70.1%)	29 (50.9%)
	③復籍後、再度転学等した児童 生徒数 (②に占める割合)	180 (10.0%)	137 (12.2%)	2 (7.7%)	19 (9.6%)	12 (11.7%)	2 (6.9%)
私立	①児童生徒数 (全児童生徒数に占める割合)	12 (0.02%)	62 (0.02%)	91 (0.08%)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	②年度内に復籍した児童生徒数 (①に占める割合)	9 (75.0%)	39 (62.9%)	4 (4.4%)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	③復籍後、再度転学等した児童 生徒数 (②に占める割合)	2 (22.2%)	6 (15.4%)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

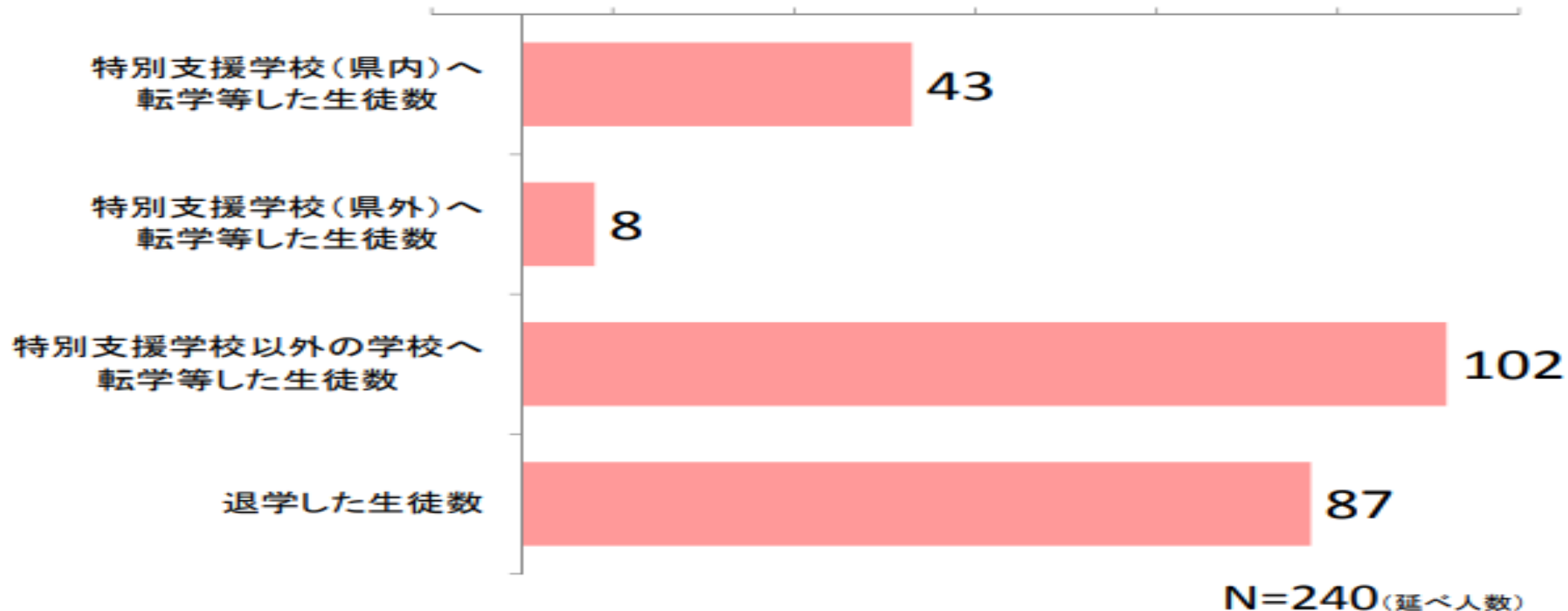
4 病気療養する高校生の教育実態

4 病気やけがにより、年間延べ30課業日以上入院した児童生徒のいる学校数(校)

		小学校	中学校	高等学校	特別支援学校 (小学部)	特別支援学校 (中学部)	特別支援学校 (高等部)
国立	学校数	2	10	2	3	4	1
	全学校数に 占める割合	2.7%	13.0%	10.5%	6.7%	9.1%	2.3%
公立	学校数	1,273	1,007	691	208	181	232
	全学校数に 占める割合	6.1%	10.3%	18.8%	23.4%	20.5%	26.5%
私立	学校数	12	82	258	0	1	2
	全学校数に 占める割合	5.4%	10.4%	19.3%	—	11.1%	18.2%
合計	学校数	1,287	1,099	951	211	186	235
	全学校数に 占める割合	6.1%	10.3%	18.9%	22.4%	19.9%	25.2%

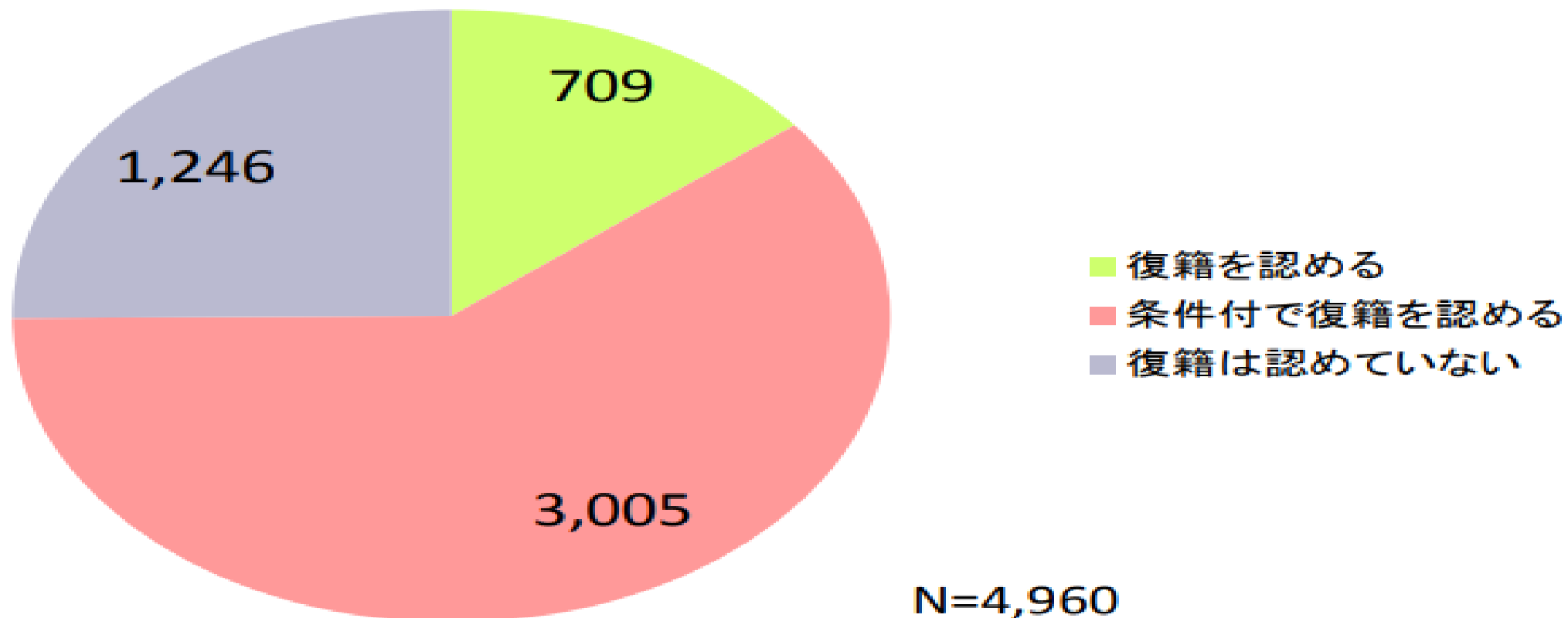
4 病気療養する高校生の教育実態

病気やけがによる入院により、転学等をした生徒の転学先



4 病気療養する高校生の教育実態

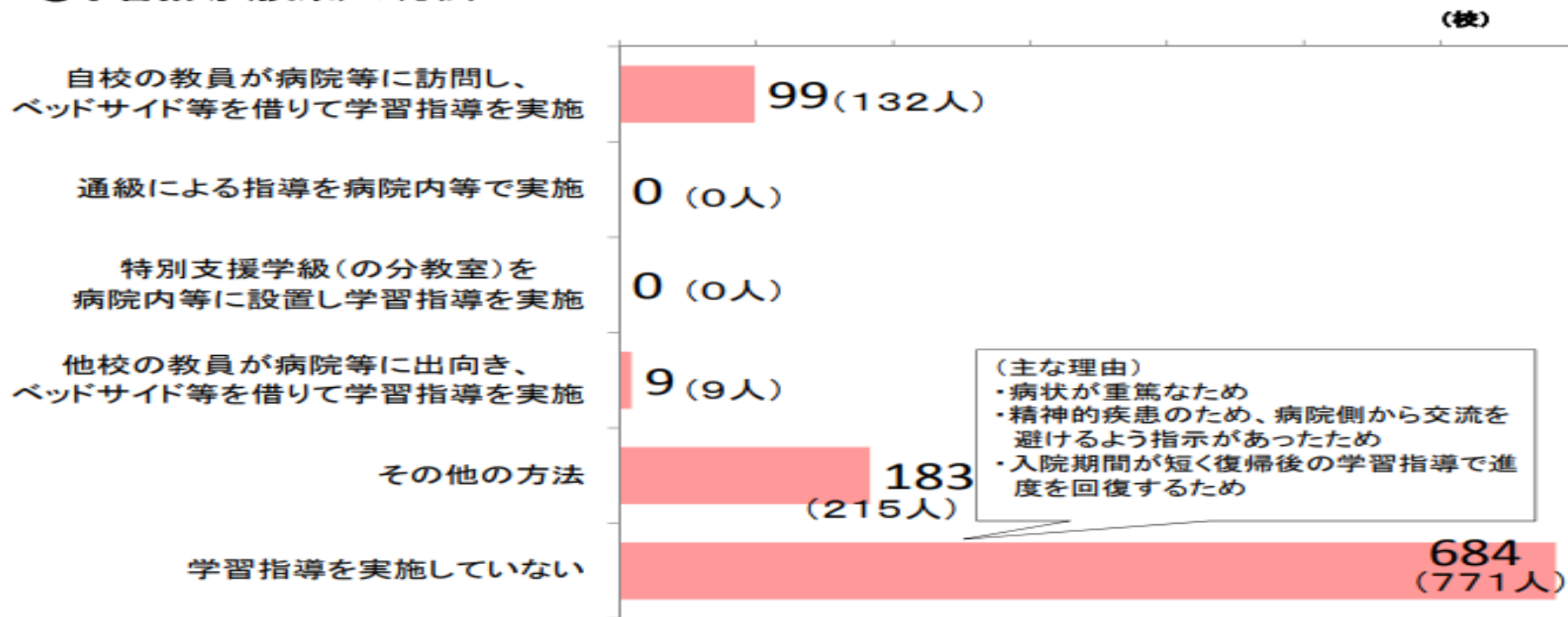
転学等をした生徒が復籍を希望した場合の取扱い



4 病気療養する高校生の教育実態

病気やけがにより、延べ30課業日以上入院した生徒への対応 N=951校(1,124人)

①学習指導(授業)の方法



4 病気療養する高校生の教育実態

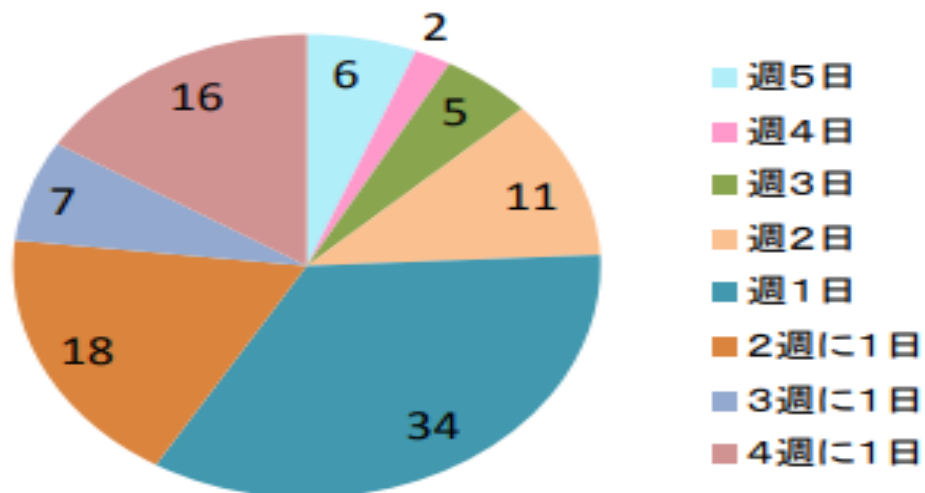
病気やけがにより、延べ30課業日以上入院した生徒への対応 N=951校(1,124人)

②学習指導(授業)の形態ごとの平均回数及び平均時間

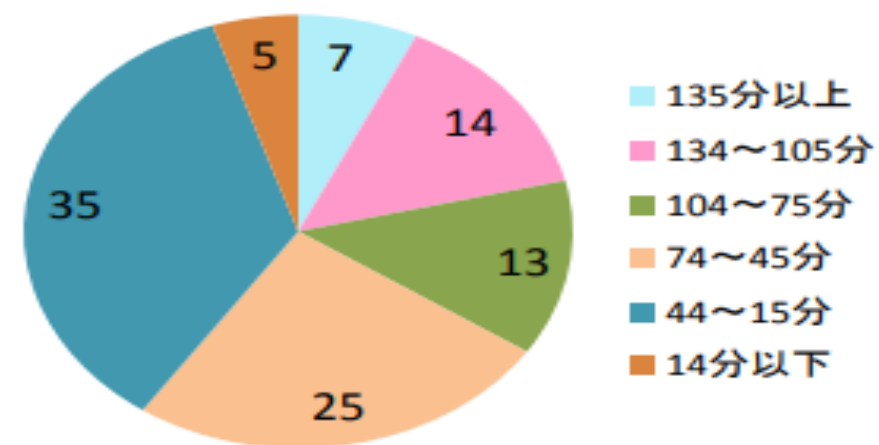
(1)自校の教員が病院等に訪問し、ベッドサイド等を借りて学習指導を実施

(校)

平均実施回数



1日あたりの平均実施時間



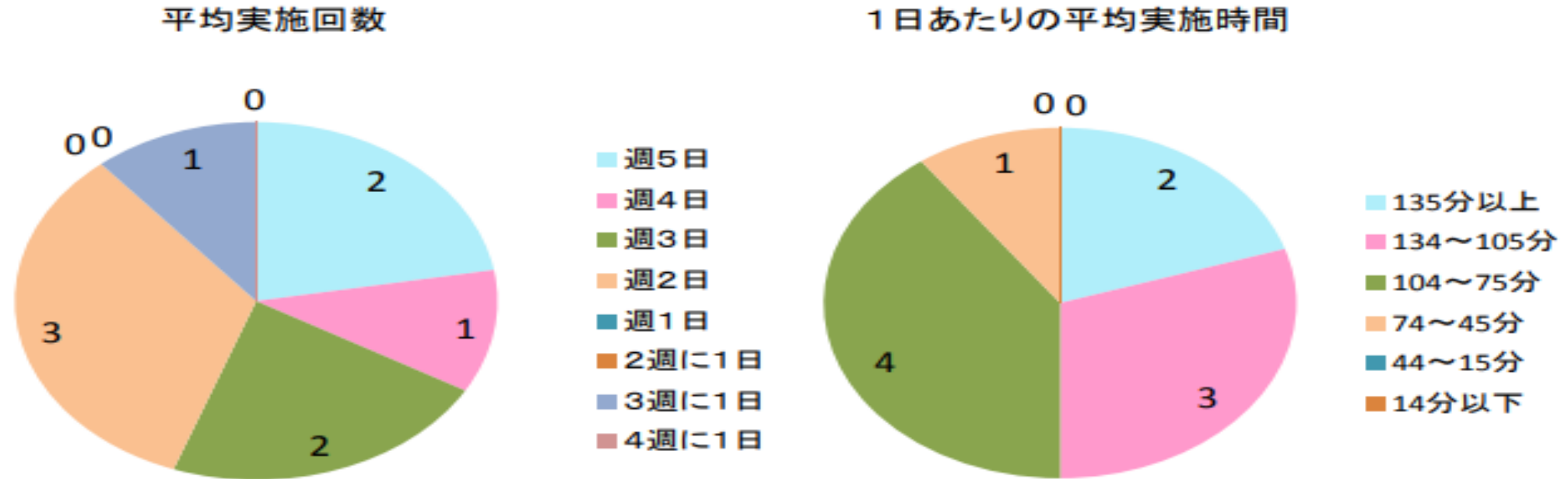
4 病気療養する高校生の教育実態

病気やけがにより、延べ30課業日以上入院した生徒への対応 N=951校(1,124人)

②学習指導(授業)の形態ごとの平均回数及び平均時間

(2) 他校の教員が病院等に出向き、ベッドサイドや会議室等を借りて学習指導を実施

(校)



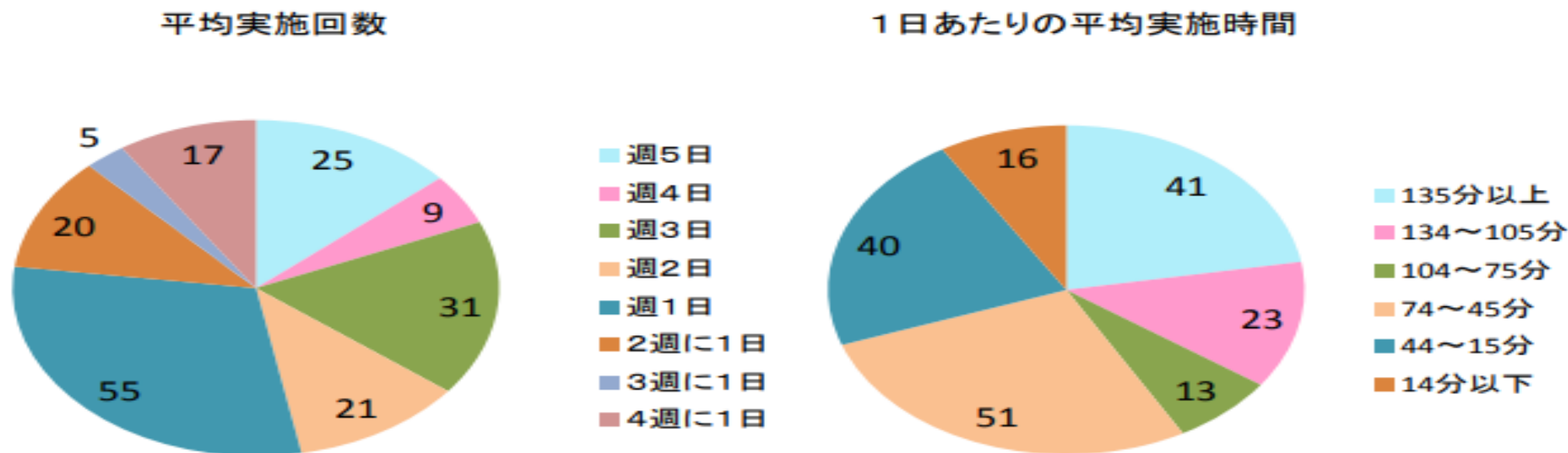
4 病気療養する高校生の教育実態

病気やけがにより、延べ30課業日以上入院した生徒への対応 N=951校(1,124人)

②学習指導(授業)の形態ごとの平均回数及び平均時間

(3)その他の方法

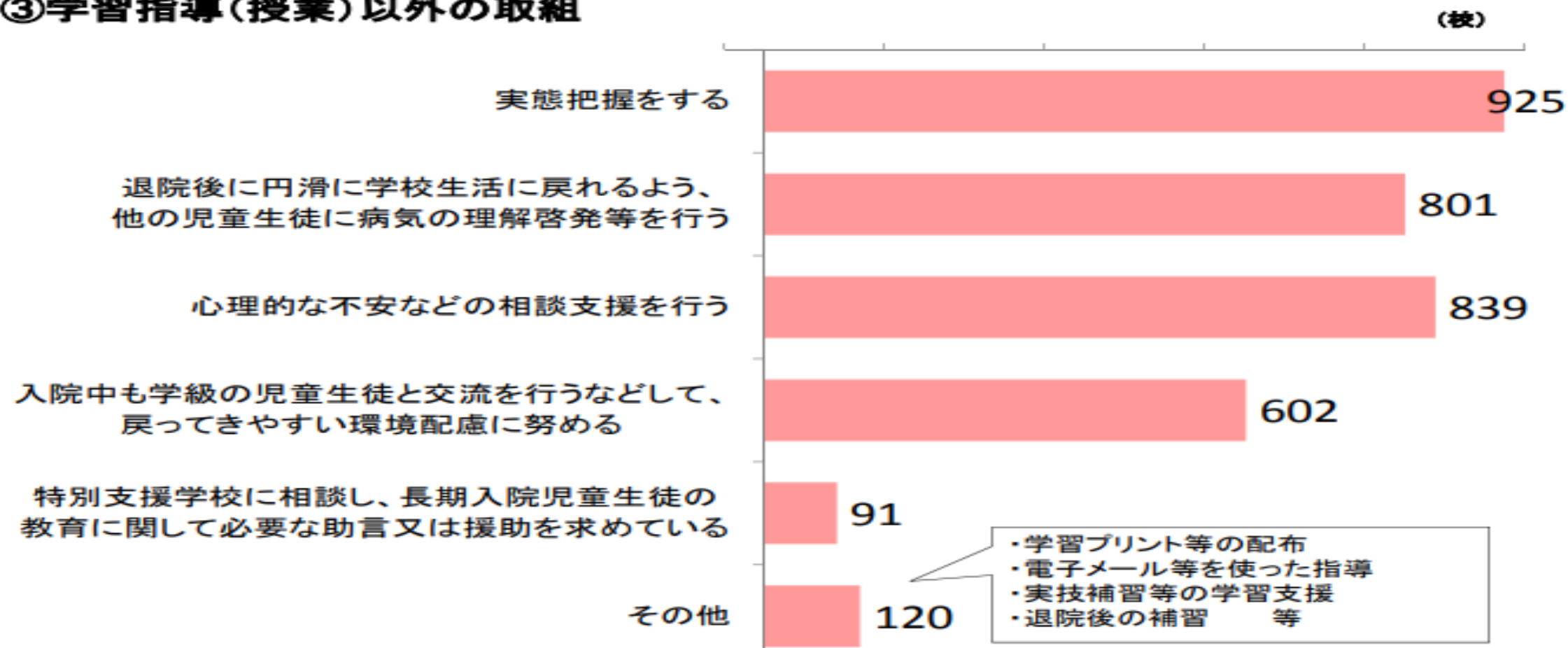
(校)



4 病気療養する高校生の教育実態

病気やけがにより、延べ30課業日以上入院した生徒への対応 N=951校(1,124人)

③学習指導(授業)以外の取組



文部科学省(2015)「長期入院児童生徒に対する教育支援に関する実態調査」より

4 病気療養する高校生の教育実態

(最新情報) 令和4年度 病気療養児に関する実態調査 (概要)

1. 目的

疾病や障害により病院や自宅で療養中の病気療養児の実態について、病気療養児の人数、通常の学級から特別支援学校への転学、教育支援の実施状況等について実態を把握し、今後の施策の充実に資する。

2. 対象

(1) 学校向け調査

全国の国公立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校

(2) 教育委員会向け調査

都道府県教育委員会、市区町村教育委員会

3. 調査内容

(1) 学校向け調査

- ① 入院中の児童生徒に関する調査(令和4年9月1日時点)
 - ・ 入院中の児童生徒数
 - ・ 病院内の特別支援学級又は特別支援学校分校・分教室数、在籍児童生徒数
- ② 病気療養児に関する調査(令和4年度中)
 - ・ 主傷病名、転学、転籍、進級等の状況
 - ・ 同時双方向型授業の実施の有無、活用機器等
 - ・ 同時双方型授業以外の指導や支援
 - ・ オンデマンド型の授業の実施の有無(特別支援学校高等部の訪問教育)

(2) 教育委員会向け調査

学校に在籍する病気療養児に対する教育委員会としての取組(実態調査、理解啓発等)

4. 調査スケジュール

(令和5年) 2月下旬	調査票発出(予定)
5月中旬	調査票回収、集計(予定)

5 入院児童生徒等への教育保障体制整備事業

高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制整備事業（令和元年度実施事業）

<目的>

各自治体において、在籍校、特別支援学校、教育委員会、病院等の関係機関が連携し、高等学校段階の入院生徒等に対し、個々の状況に応じた教育機会の確保や復学支援を行う体制の整備に関する調査研究を実施する。

<成果報告書>

宮城県、秋田県、栃木県、神奈川県、三重県、京都市

5 入院児童生徒等への教育保障体制整備事業

高等学校段階の病気療養中等の生徒に対するICTを活用した遠隔教育の調査研究事業

(令和4年度実施事業)

<趣旨>

小・中学校の義務教育段階に比べ、これまで十分な教育機会の確保や復学支援がなされてこなかった、高等学校段階における病気療養中等の生徒（※）に対する、ICTを活用した効果的な遠隔教育の活用方法等の研究を行う。

<成果報告会発表資料>

北海道、宮城県、栃木県、神奈川県、長野県、京都市

6 病気療養中の高校生への継続的な学習支援の実際

埼玉県の場合

埼玉県立小児医療センター

県立学校人事課

保健医療部

2018年度9月から

高校教育指導課

高校生入院時学習支援

対象：埼玉県立小児医療センター

けやき特別支援学校

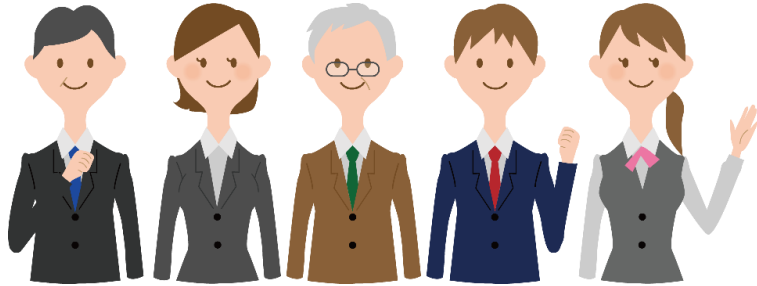
特別支援教育課

1カ月以上入院する
県立高校の生徒

志村芳紀（2022）「埼玉県での高校生支援」
（日本特殊教育学会第60回大会自主シンポジウム「病気療養中の高校生への継続的な学習支援の現状と課題」発表資料より引用

けやきの非常勤講師

高校生支援の先生方



英語

社会

理科

数学

国語

県立 A 高校の非常勤講師

病棟での
訪問授業



プリント・テスト



支援状況報告



A 高校生徒

県立 A 高校



近況報告

配布物

支援状況報告



高校教育指導課

志村芳紀 (2022) 「埼玉県での高校生支援」 (日本特殊教育学会第60回大会自主シンポジウム「病気療養中の高校生への継続的な学習支援の現状と課題」発表資料より引用)

	埼玉県立高等学校生徒	左記以外の高校 特別支援学校などの生徒
支 援 名	高校生入院時学習支援	学習サポート
位置付け	埼玉県の事業	センター的機能
けやきの授業 の扱い	授業時数としてカウント	学校の裁量
単位認定 進級・卒業認定	学校の裁量	

福島県の場合

高校生への学習支援のしくみ

福島県立医科大学附属病院の小児腫瘍内科入院の高校生



福島県がん対策の推進に関する条例に基づく

主治医が入院期間をもとに通信制高校への転籍もしくは在籍校のままでいるかの話を本人と保護者へ ただし県立高校の普通科在籍生徒に限る



転籍希望



主治医



福島県教育庁高校教育課



患者サポートセンター



通信制高校



原籍高校



転籍希望なし



医大校



在籍高校
連絡調整
課題支援

福島県立医科大学附属病院入院の高校生
(小児腫瘍内科以外)

主治医



医 大 校

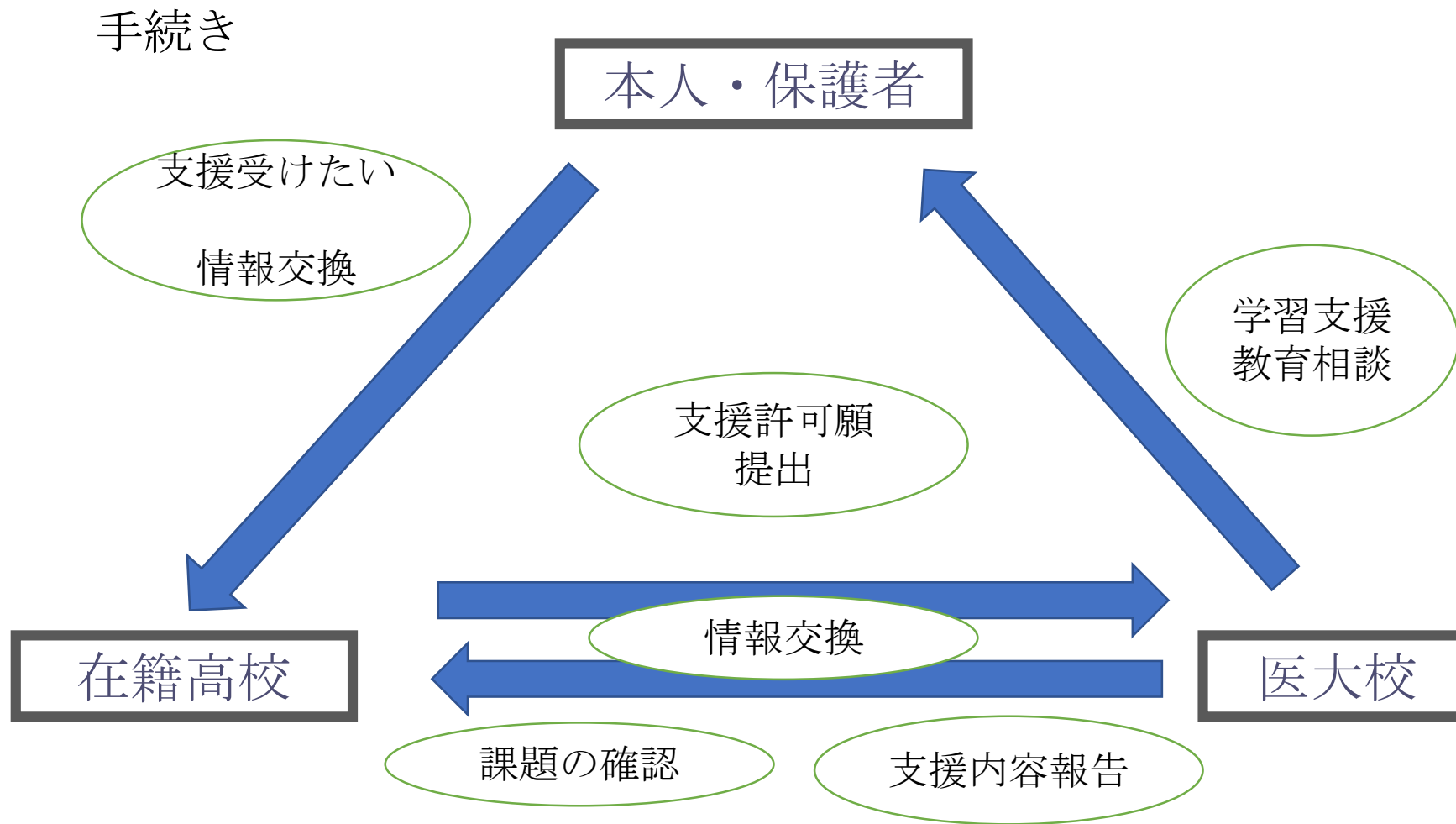


患者サポートセンター



在籍高校
連絡調整
課題支援

宍戸和枝 (2022) 「病気療養中の高校生への継続的な学習支援の現状と課題～高校生支援の実際から感じること～」 (日本特殊教育学会第60回大会自主シンポジウム「病気療養中の高校生への継続的な学習支援の現状と課題」発表資料より引用)



(私立) 三浦学苑高等学校の場合

今年度の日本特殊教育学会で、発表予定なので
取扱注意！

入院時等学習サポート制度～三浦学苑モデル～



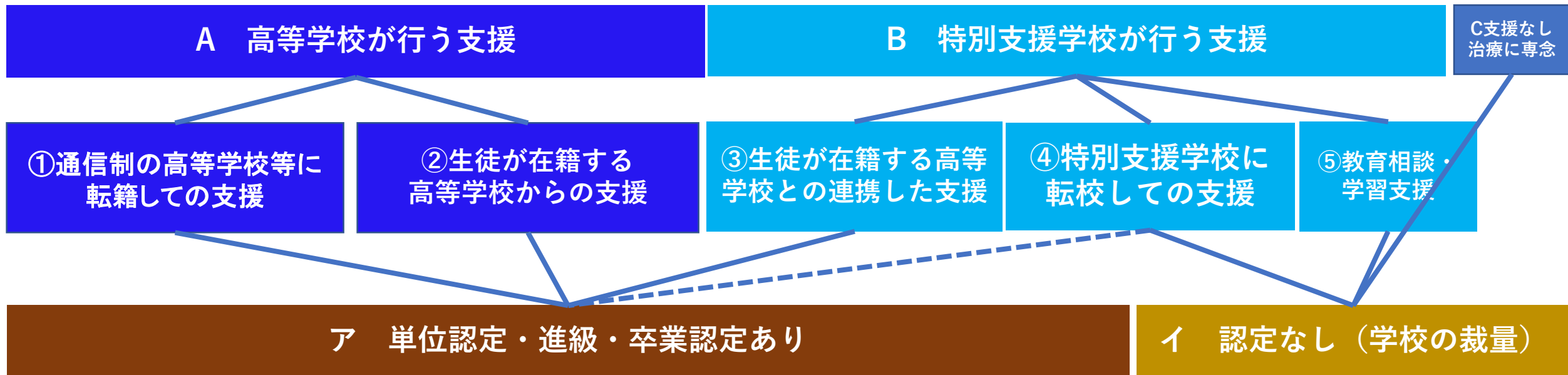
●入院時等学習サポートの対象となる条件

- ✓ 20日以上入院が見込まれる。
- ✓ 生徒がサポートを希望し、かつ、その保護者が了解している。
- ✓ 生徒が継続した学習に耐えられる状態であると主治医が判断。
- ✓ 生徒が入院時等学習サポートを受ける必要があると校長が認めている。

今、関わらせていただいている、実際に高等学校に通学している病気のある生徒等の課題

・現在、高等学校2年生のA生徒。水疱症のため全身に包帯を巻いている（手指、腕も包帯を巻いている）。歩行はできるが、足の裏にも水疱ができるため、学校では車椅子で生活している。学力は高く、成績も優秀で大学受験をめざしている。授業を受ける時は、特別支援教育支援員がつき、必要に応じて支援を行っている。座学には問題はないが、一番の課題は体育の授業である。先日はバレーボールの授業を見学させていただいたが、他の生徒がアタックやレシーブ、トス等の練習をしていたが、A生徒は特別支援教育支援員と一緒に風船でキャッチボールを行っていた。A生徒の一番の悩みは、体育の成績がいつも5段階評価の「3」であることである。このようなA生徒に対して、体育の授業で配慮すべき点は何か、彼の体育の成績が「3」以上になるためにどのような配慮をすべきか？

7 病気療養する高校生への支援のまとめ



高校生支援としては、
高等学校が行う支援、特別支援学校が行う支援がある。

7 病気療養する高校生への支援のまとめ（現状と課題）

- 病気療養する高校生への支援を行う学校は、高等学校、特別支援学校の両方ある。（支援方法はさまざま）
- 生徒の住む場所によって、支援の在り方が異なる。（専門性の高い医師のいる病院で治療を受けるので、県外の方も入院する場合がある。その場合の支援は？）（支援するための入院日数もさまざまな基準）
- 病気によって支援の仕方に違いがあるかもしれない。（悪性新生物と精神疾患など）
- 生徒の立場から、入院した場合の単位認定・進級・卒業認定は気になる事項である。（教育相談的な対応以外にも何とかならないのか？）
- 入院した場合の都道府県の窓口がわかりにくいので、このような学習支援がなされていること自体が分からない生徒もいる。高校教育課で支援を担っている県、特別支援教育課が担っている県がるが、両者が連携して支援を行って欲しいという要望がある。窓口の一本化。

- ・教科・科目によっては、対応できない場合もあることに対して何とかならないかという質問もある。
- ・県内で、高校や病弱特別支援学校で開講している教科・科目をリストアップして、生徒が選択できるような仕組みがあると良いかもしれない。（単位が相互互換できる仕組み）
- ・入院はしていないが、高等学校へ通学している高校生への支援をどうするか。

(宣伝) 病気療養中の高校生への継続的な学習支援の実際

日本特殊教育学会第61回大会 自主シンポジウム I-74

○日程 2023年8月27日(日) 12:30-13:30 経済2号館211

○場所 横浜国立大学

自主シンポジウム「病気療養中の高校生への継続的な学習支援の現状と課題2」

企画者・司会者	大崎 博史 (国立特別支援教育総合研究所)
司会者	五島 脩 (横浜国立大学)
	嶋野 隆文 (国立特別支援教育総合研究所)
話題提供者	吉田 和市・中村 洋士 (学校法人三浦学苑 三浦学苑高等学校)
	手塚 亜希子・福田 有宏 (栃木県立岡本特別支援学校おおるり分教室)
指定討論者	羽田 京子 (全国病弱虚弱教育学校PTA連合会)
	関 由起子 (埼玉大学)

〔付記〕 本発表はJSPS科学研究費(課題番号22K02796)の助成を受けた。

参考

「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」事例整理集

「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」
事例整理集

◇
「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」事例整理集」
http://www.nise.go.jp/nc/cabinets/cabinet_files/download/1079/12c8180d4c6f63b0855b364aacffcb3d?frame_id=1235

病気療養等により支援が必要な児童生徒のための遠隔教育Q & A

病気療養等により支援が必要な児童生徒のための

遠隔教育 Q&A

◇
「遠隔教育Q & A」
http://www.nise.go.jp/nc/cabinets/cabinet_files/download/1079/0908359489de45c210cbbb953c62f86a?frame_id=1235

参考

特別支援教育教材ポータルサイト(支援教材ポータル)

H27.3開設

<http://kyozai.nise.go.jp/>

障害のある幼児児童生徒一人ひとりの状態や特性などに応じた支援機器等教材に関する活用方法や取組事例などの情報提供ポータルサイトです。(H27.3～)



「教材・支援機器」をキーワードや条件で絞り込んで検索します

「実践事例」をキーワードや条件で絞り込んで検索します

「教材・支援機器」と「実践事例」が相互に参照できます。

普及活動

展示会の開催

- 支援機器等教材の教育現場における活用方法や事例を紹介するための展示会を開催。



研修会の実施

- 各都道府県の指導者層を対象に支援機器等教材を活用した実践研修を実施



引用・参考文献

- 新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議(2021) 「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告」
- 大崎博史・笹森洋樹・三宮真智子 (2021) 高等学校における合理的配慮の現状と課題—高等学校23校を対象としたインタビュー調査より—.国立特別支援教育総合研究所ジャーナル第10号, 5-10.
- 志村芳樹 (2022) 日本特殊教育学会第60回大会自主シンポジウム「病気療養中の高校生への継続的な学習支援の現状と課題」話題提供3
- 穴戸和枝 (2022) 日本特殊教育学会第60回大会自主シンポジウム「病気療養中の高校生への継続的な学習支援の現状と課題」話題提供2
- 吉田和市・中村洋士 (2023) 「病気療養中の高校生への継続的な学習支援の現状と課題2」話題提供1 (予定)
- 中央教育審議会初等中等教育分科会 (2012) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進 (報告) .
- 文部科学省 (2023) 「特別支援教育の充実について」資料
- 文部科学省 (2018) 高等学校学習指導要領解説

引用・参考文献

文部科学省（2020）高等学校段階における入院児童生徒に対する教育保障体制整備事業 成果報告書

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006/h29/1409793_00002.htm

文部科学省（2023）高等学校段階の病気療養中等の生徒に対するICTを活用した遠隔教育の調査研究事業

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00015.html

文部科学省（2020）高等学校段階における入院児童生徒に対する教育保障体制整備事業 成果報告書

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006/h29/1409793_00002.htm

「遠隔教育Q & A」

http://www.nise.go.jp/nc/cabinets/cabinet_files/download/1079/0908359489de45c210cbbb953c62f86a?frame_id=1235

「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」事例整理集」

http://www.nise.go.jp/nc/cabinets/cabinet_files/download/1079/12c8180d4c6f63b0855b364aacffcb3d?frame_id=1235